

植物研究雑誌 84: 310–312 (2009)

ミズタカモジの徳島県における分布 (茨木 靖^a, 中村俊之^b, 木下 覺^c, 小川 誠^a)
 Yasushi IBARAGI^a, Toshiyuki NAKAMURA^b, Satoru KINOSHITA^c and Makoto OGAWA^a: *Elymus humidus* (Ohwi & Sakam.) Osada (*Poaceae*) Found in Tokushima Prefecture, Western Japan

Summary: *Elymus humidus* (Ohwi & Sakam.) Osada (*Poaceae*) is found in Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan. Although this perennial grass was reported in the prefecture, the existence was not confirmed for a long time. *Elymus humidus* is very rare in Shikoku and is affraid to be extinct. Conservation for the species is extremely required.

徳島県内に、ミズタカモジ *Elymus humidus* (Ohwi & Sakam.) Osada (イネ科) が現存していることが明らかとなったので、他の知見と併せて報告する。本種は、これまでに「我が

国における保護上重要な植物種の現状」(我が国における保護上重要な植物種および植物群落に関する研究委員会種分科会 1989)、木村ら (1995)、および環境庁のレッドデータブック (環境庁自然保護局野生生物課 2000) などの資料において、徳島県内にも存在すると記録されているが、最初の発見からこれまで30年以上もの間、確かな生育の記録は無く、現状は未確認のままであった。このため、徳島県版のレッドデータブックでは、本種についての記述を削除してある(徳



Fig.1. *Elymus humidus* in Komatsushima, Tokushima Pref., Japan. A. Habitat. B. Habit. A–B. Photo by Y. Ibaragi, on 19 May 2007. C. Inflorescence showing its axis is remaining on the culm apex. Photo by T. Nakamura, on 6 June 2008.

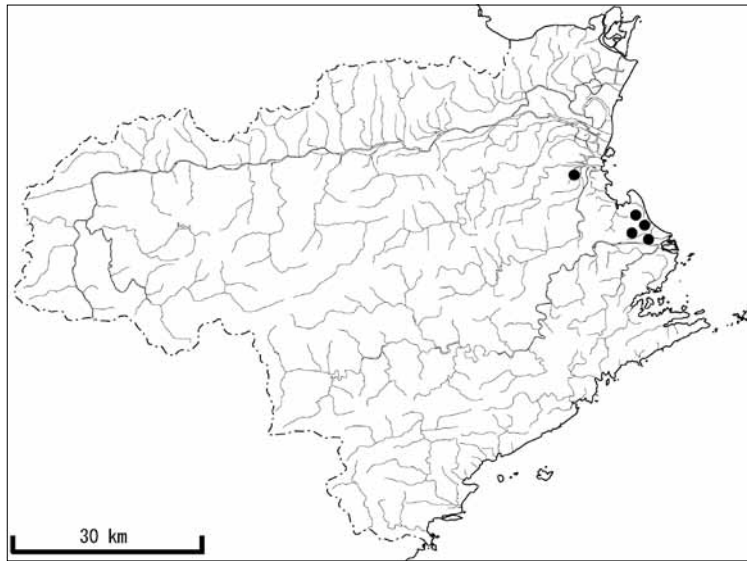


Fig. 2. Distribution of *Elymus humidus* in Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan.

島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 2001).

今回、ミズタカモジの現存が確認されたのは、県南部を流れる那賀川の北岸平野であり、著者の一人、中村によって水田畦において発見された。この地域は、那賀川の氾濫原にあたり、徳島県内有数の広大な水田地帯となっている。本種の発見された地点は、数年間耕作が放棄された水田を再び耕作した場所で (Fig. 1A), 土の畦に沿って、数十メートルに渡り生育が確認された (Fig. 1B)。その後、同じく那賀川河口域において、かなりの個体数が存在していることが確認できた。さらに、徳島県植物誌 (阿部 1990) の証拠標本を再検討した所、本書でオオタチカモジ *Agropyron maebaranum* Honda とされている植物 (標本: C. Abe 43955, 43956 など) は、いずれも穎果を有しており、ミズタカモジであることが明らかとなった。これらより、本来、ミズタカモジは、那賀川の北岸から勝浦川の北岸にかけての県東部平野にかなり広く分布していたものと推測された (Fig. 2)。四国の他県においては、高知県 (山中 1978) や愛媛県 (松井宏光氏 私信) などからも報告がある。しかし、高知県では確実な証拠標本

が無く、また、愛媛県でも、その現存量はごく僅かであることから、徳島県内の生育地は極めて重要なものと言える。なお、本種の生育地は、水路脇の斜面がほとんどで (阪本 1984)、水路の改修によって容易に消滅するので、本種の保護にあたっては、この点に留意することが重要である。

ミズタカモジは平野部の湿地に生える多年生の植物である。花後に倒伏した茎の下方の節から枝を出して、苗を生じる著しい特徴があり、カモジグサ属の他種とは明らかに異なる (阪本 1978)。直立した花穂には、小穂が圧着し、花穂が曲がるカモジグサやアオカモジグサと区別できる。また、内穎の上半部に翼が無いことで、カモジグサから識別され、内穎が護穎と同長である点で、内穎の短いアオカモジグサやタチカモジグサとは区別できる。今回見つかった徳島県産のものは、これらの特徴と一致するのでミズタカモジと同定される。ただし、Ohwi and Sakamoto (1964) が、本種の原記載の中で、「花穂が成熟すると最上の節から一番上の葉をつけたままで脱落する」ことをその特徴としてあげている点については、筆者らが本種を栽培し継続的に観察した所、このような現象

は見られなかった (Fig. 1C). 野外の生育地での観察でも、花穂が積極的に最上の節で折れることはなかった。地域差も考えられるので、他県の個体での状況などもあわせて、今後の検討課題としたい。

なお、Keng (1959) の報告しているオオタチカモジについて、Ohwi and Sakamoto (1964) は、ミズタカモジそのものであり、中国にも本種が分布するとしている。さらに本種は中国原産で、ゲンゲなどの導入に伴って日本に渡来したものであろうと考察している (Ohwi and Sakamoto 1964)。しかし、これまでに中国で報告されているオオタチカモジは、いずれも *Elymus shandongensis* B. Salomon の誤同定であることが明らかにされている (Chen and Zhu 2006)。この同定が正しければ、ミズタカモジは、中国からの帰化植物ではなく、日本固有の在来種と考えられることになる。

Specimens examined: **TOKUSHIMA**. Nakatsu, Akaishi, Komatsushima, 19 May 2007, Y. Ibaragi 190507003 (TKPM-BSP 072616); Sakano-cho, Komatsushima, 10 May 2007, T. Nakamura 9382 (TKPM-BSP 072057); Teshima, Nakagawa-cho, Naka-gun, 28 May 2008, T. Nakamura & E. Harada 12378 (TKPM-BSP 073278); Hirashima, Nakagawa-cho, Naka-gun, 15 May 2008, T. Nakamura & E. Harada 12370-12376 (TKPM-BSP 073270-073275, 073277); Imazuura, Nakagawa-cho, Naka-gun, 16 May 2008, T. Nakamura & E. Harada 12377 (TKPM-BSP 073276); Nakashima, Nakagawa-cho, Naka-gun, 01 May 1974, S. Takafuji 518 (TKPM-BSP 030403); Nakashima, Nakagawa-cho, Naka-gun, 19 May 1974, S. Takafuji s.n. (TKPM-BSP 038069); Jizohbashi, Tokushima, 03 May 1971, C. Abe 43956 (TKPM-BSP 213444); Jizohbashi, Tokushima, 03 May 1971, C. Abe 43955 (TKPM-BSP 213443); Jizohbashi, Tokushima, 03 May 1971, C. Abe 43954 (TKPM-BSP 210583, 213442); Jizohbashi, Tokushima, 03 May 1971, C. Abe 43957 (TKPM-BSP 213445); Jizohbashi, Tokushima, 02 May 1969, C. Abe 38006 (TKPM-BSP 210126); Jizohbashi, Tokushima, 02 May 1969, C. Abe 38005 (TKPM-BSP 213441).

本研究にあたり、桜美林大学自然科学系の木場英久准教授、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男学芸員には、本植物の神奈川県内における分布および生態について、貴重な情報をご提供いただきました。松山東雲短期大学の松井宏光教授には、ミズタカモ

ジの愛媛県内における分布に関し、貴重な情報をいただきました。また、有限会社ウエットランド研究所の原田悦子氏には本種の徳島県内での分布に関し、重要な情報をご教示いただきました。東京大学総合研究博物館の池田博准教授、千葉県立中央博物館の天野誠上席研究員には、標本の閲覧にあたりご協力いただきました。ここに記して謝意を表します。

引用文献

- 阿部近一 1990. 徳島県植物誌. 580 pp. 教育出版センター, 徳島.
- Chen S. L. and Zhu G. H. 2006. *Elymus*. In: Wu C. Y. and Raven P. H. (eds.). *Flora of China* 22: 400-429. Science Press, Beijing and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- 環境庁自然保護局野生生物課 (編) 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物 I (維管束植物). 660 pp. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
- Keng Y. L. 1959. *Roegneria*. In: Keng Y. L. (ed.), *Fl. Ill. Plant. Prim. Sin. Gramineae*. pp. 342-409. Scientific Book Co., Peking.
- 木村晴夫, 赤澤時之, 田渕武樹, 木内和美, 木下 覚, 小川 誠, 小松研一, 真鍋邦男, 篠原正義 1995. 那賀川町の植物相. 阿波学会紀要, 41: 39-55.
- Ohwi J. and Sakamoto S. 1964. Taxonomy, ecology and distribution of *Agropyron humidum* Ohwi & Sakamoto. *J. Jpn. Bot.* 39(4): 109-114.
- 阪本寧男 1978. 冬季休閑田雑草としてのカモジグサ属植物の適応性. 雑草研究 23: 101-107.
- 阪本寧男 1984. ミズタカモジグサについて. 福岡の植物 10: 1-8.
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 編 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック—. 徳島県, 徳島.
- 我が国における保護上重要な植物種および植物群落に関する研究委員会種分科 会編 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320 pp. (財) 日本自然保護協会・(財) 世界自然保護基金日本委員会, 東京.
- 山中二男 1978. 高知県の植生と植物相. 461 pp. 林野弘済会高知支部, 高知.

(^a徳島県立博物館

E-mail: ibaragi-yasushi-1@mt.tokushima-ec.ed.jp,

^b(有)ウエットランド研究所,

^c771- 鳴門市